

令和 8 年度（2026 年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

商 法

C 日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は 2 枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和 8 年度（2026 年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	商	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題 1（15 点）

次の事例を読み、[問い] に答えなさい。

1. 株式会社である甲社の取締役には、創業者である A のほか、地元の名士である Y が就任していた。
2. その後、Y は甲社取締役を辞任したが（なお、辞任の際に甲社取締役に欠員は生じなかった）、A から「甲社の信用のため、登記簿に Y の名前は残しておいてほしい」と懇願されたため、Y はこれを承諾した。
3. 甲社の登記簿には、現在まで Y の辞任登記はなされていない。また、Y は辞任以後、甲社の業務執行にはまったく関与していない。
4. X は甲社に対して売掛金債権を有していたが、A の放漫経営により甲社が倒産状態に陥り、他にめぼしい財産もなかったため、甲社役員への責任追及を考えている。なお、X は上記 2 及び 3 の事実について善意無重過失であった。

[問い]

最高裁の立場を踏まえつつ、X が Y の責任を追及するために考えられる会社法上の理論構成を説明しなさい。

問題 2（10 点）

議案を否決する株主総会決議にかかる取消しの訴えについて、最高裁の立場を踏まえつつ、論じなさい。